

まちづくり活動③		宵田・元町地域まちなか再生協議会																		
所在地		豊岡市中央町18-8																		
概要	<p>・宵田・元町地域を次世代も住み、営みたくなる地域にすることを目的に、空き店舗兼住宅の解消・活用によるカバン店の集積、マルシェ及びファッションショーの開催等に取り組み、地域の活性化に貢献。</p>	活動地域 付近見取り図	<p>活動地域 豊岡市宵田地域、元町地域</p>																	
			<table border="1"> <tr> <th>設立年月日</th> <td>平成28年7月7日</td> <th>団体構成員数</th> <td>約9名</td> </tr> <tr> <th rowspan="5">主な活動歴</th> <td>平成29年3月</td> <td colspan="2">第1回カバストマルシェプレミアムの開催</td> </tr> <tr> <td>平成29年6月</td> <td colspan="2">まちなか再生計画策定</td> </tr> <tr> <td>平成29年7月～</td> <td colspan="2">①街並み景観の向上、②空き家・空き店舗の活用、③まちなか複合拠点の導入等の検討開始</td> </tr> <tr> <td>平成29年8月～</td> <td colspan="2">カバンストリートファッションショーの開催</td> </tr> <tr> <td>平成30年6月～</td> <td colspan="2">街並み景観の向上についてのワークショップの開催</td> </tr> </table>	設立年月日	平成28年7月7日	団体構成員数	約9名	主な活動歴	平成29年3月	第1回カバストマルシェプレミアムの開催		平成29年6月	まちなか再生計画策定		平成29年7月～	①街並み景観の向上、②空き家・空き店舗の活用、③まちなか複合拠点の導入等の検討開始		平成29年8月～	カバンストリートファッションショーの開催	
設立年月日	平成28年7月7日	団体構成員数	約9名																	
主な活動歴	平成29年3月	第1回カバストマルシェプレミアムの開催																		
	平成29年6月	まちなか再生計画策定																		
	平成29年7月～	①街並み景観の向上、②空き家・空き店舗の活用、③まちなか複合拠点の導入等の検討開始																		
	平成29年8月～	カバンストリートファッションショーの開催																		
	平成30年6月～	街並み景観の向上についてのワークショップの開催																		

1

【目的】

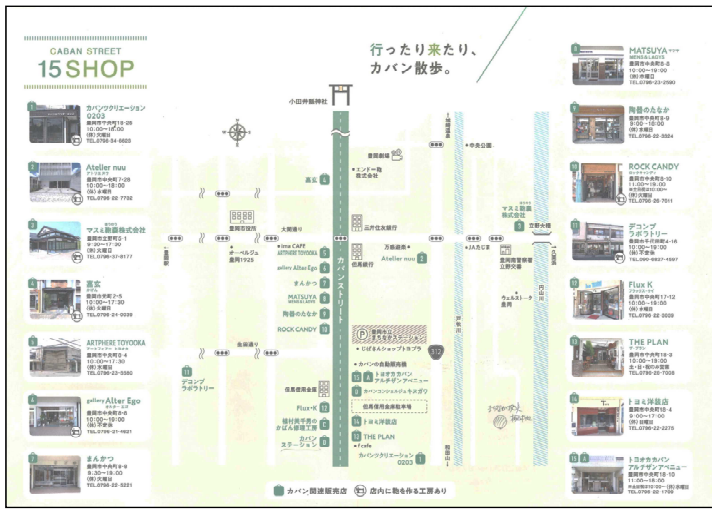
かばん店が集積し、観光客の満足度が高いネクストカバンストリートをつくり、宵田・元町地域を次世代も住み、営みたくなる地域にする

【経緯】

平成16年に前身の宵田商店街振興組合を結成し、地場産業であるカバンに着目した商店街の活性化に取り組んできたが、平成28年から県の「商店街の活性化とまちの再整備によるにぎわいのまちづくり事業」を活用し、再生協議会として活動を開始

【活動の特色】

- 商店街の空き店舗兼住宅の解消・活用等によるカバン店の集積
- マルシェやファッションショーの開催による地域活性化
- 前面道路一方通行化やまちなか複合拠点等、地域の将来像の提案



カバンストリート

平成16年頃、宵田商店街にカバン店は1店舗もなかったが、前身の組合の頃から空き店舗の利活用等を行い、現在は約15店舗が営業。



カバンストリート情報発信基地

PRのための修景整備

カバンをモチーフにした椅子や自動販売機を設置。



カバン職人育成学校

カバストマルシェプレミアム 日時:平成29年3月26日(日) 場所:カバンストリート



平成24年から実施しているカバストマルシェの拡大版。

それまでのマルシェ活動に加え、共通ロゴ及び試作案内板の採用、かばんをモチーフとした商品開発、学生による屋台等、新たな取組が加わった。

社会実験で車道の一部に人工芝を敷き、歩道を拡幅し、来訪者の滞留空間を創出。

人が主役となるカバンストリートのイメージを地域で共有。



試作案内板



共通ロゴ



カバンストリートファッションショー

毎年夏に開催。平成29年から新たに取り入れた。商店街のアルチザン前面道路にレッドカーペットを敷いてステージに。モデルはアイドルグループと地元住民等。多数の観客の前でカバンをアピール。

→多世代、他地域の人々による交流を促進。
ショーの様子は動画で配信し、豊岡靴をPR。



アルチザン



まちなか複合拠点の案

この地域への居住を望む多世代・多様な人々が、住み替えながら生涯この地域で暮らせるための仕組みとして提案。

例えば、上階に住む高齢者と1階の小規模保育園の園児との交流等により、助け合い・思いやりの心が自然と育まれるなど、様々な仕掛けが施されている。



【活動上の課題】

- 前面道路の一方通行化の実現に向けて、行政等との合意形成
- まちなか複合拠点の実現に向けて、建設地及び資金の確保

【今後の取組】

- 前面道路の一方通行化の実現
- まちなか複合拠点の実現、地域内各地への展開